

オペラ 『口はロボットの口』



2023.10.14 撮影

台本：鄭義信 作曲：萩京子
オーケストラ版編曲：萩京子、大部胡知
構成・演出：若竹ミュージカル演出部

東京学芸大学附属特別支援学校
卒業生・家族、支援者
若竹ミュージカルオーケストラ
指揮：田久保裕一

2023年10月29日（日）
開場：13：30
開演：14：00
会場：東京学芸大学 芸術館・学芸の森ホール

ごあいさつ

若竹ミュージカルの再始動を祝して

東京学芸大学附属特別支援学校校長 藤野 博

若竹ミュージカルの一般公開する公演が4年ぶりに再開されます。お祝いを申し上げますとともに、本公演を開催するにあたりご尽力された皆様に心より敬意を表します。ここ東京学芸大学で、本校の卒業生たちのパフォーマンスをたくさんの方々にご覧いただける日が再び来たことは喜びに堪えません。

若竹ミュージカルは東京学芸大学附属特別支援学校の卒業生とその家族、支援者などによって運営されている活動です。本校は生涯発達支援を理念とし、卒業後の余暇支援にも力を入れています。様々なサークル活動が休日に学校で行われていますが、若竹ミュージカルはそのような活動のひとつです。発足してから30年が経ちました。令和元年には長年の取り組みが評価され、文部科学大臣から「障害者の生涯学習支援活動」に係る功労者表彰をいただいております。

コロナ禍は世界中で様々な芸術・文化活動を公の場で行うことを妨げましたが、若竹ミュージカルもこの間、公演の休止を余儀なくされました。しかし、その間も、団員は練習に励み、当初はオンラインでの練習なども行っていたようです。そして対面での練習が学校でできるようになり、昨年度は「再会コンサート」として関係者だけを対象とする非公開の形式ではありましたが観客の前で演じることができました。そして、このたびの一般公開。ミュージカルを続けたい、という団員とスタッフの熱い思いが継続の力になってきたと思います。

若竹ミュージカルの特色はなんといっても障害のある人たちと指揮者、オーケストラの団員が共同で創り上げていく活動であるということです。障害のある人たちの絵画や音楽などの芸術活動は現在いろいろな形で行われていますが、障害のある人もない人も混ざり合っただけに表現するような活動はまだそれほどないのではないかと思います。このような活動の中に、日本がこれから実現していくべきインクルーシブな社会のひとつの形があるといえないでしょうか。

今回の公演は教職を目指す学生さんたちにもぜひ観ていただきたいです。観劇後に心の中にきっと何かが残り、先生になったときにインクルーシブなクラス作りの指針になってくれることでしょうか。

信頼と絆に裏付けされたあたたかい仲間たち

指揮者 田久保 裕一

私が若竹ミュージカルと関わるようになって、早1年余りが過ぎた。今から2年ほど前に私の大学時代の同級生、工藤傑史君からの1本の電話がそのきっかけとなった。「前任の指揮者広井隆先生がご逝去され、そのあとの指揮を田久保君がやってくれないか」という依頼だった。工藤君は卒業後、特別支援学校の知的障がい教育の分野で、その成果を挙げていたことは承知していた。彼との毎年の年賀状のやりとりの中で「若竹ミュージカル」のことも知っていたが、機会に恵まれずそのステージは見たことがなかった。

私は大学時代、音楽科の学生として在籍していたが学芸大管弦楽団には入部しなかった。しなかったというより「できなかった」というほうが妥当だろう。日々の音楽科の課題をこなすのに忙しく、また土日は地元の千葉県でオーケストラ活動を3つやっていたので、大学のサークルに入ることは時間的にも体力的にも限界があったからだ。しかし指揮者の広井先生にはいつも目をかけていただき、練習を見学させていただいたり演奏会にも何度も足を運んで演奏を聴かせていただいた。私が教師を辞め指揮者の道を歩み始めた時にも声をかけてくださった。先輩のように慕っていた広井先生が2019年にお亡くなりになり、「若竹ミュージカル」の後任の指揮者を探しているという工藤君からの電話だった。

私は重責を感じながらも二つ返事でOKした。広井先生からバトンを渡されたように感じたからだ。60代も半ばを迎えるようになって、何か皆さんのお役に立てることがあればと思って快諾をした。大学を卒業して40年余りが過ぎて、旧友の工藤君と同じ夢を見ることができると今かみしめている。工藤君から一冊の本をいただいた。「僕たちのプロドウェイ」という若竹ミュージカルの活動記録。2005年発行のその本の中には設立から約10年が経ち、卒業生とご家族や支援者の皆さんの固い絆が記されていた。発刊からさらに20年近くの時が流れている。本を読み終えて一日も早く皆さんに会いたくなり、予定されていた初練習を待たずに、私は練習場に駆けつけた。広井先生を失った悲しみやショックも大きかったろうに皆さん満面の笑みで私を迎えてくれた。初対面の私に対してまるで昔から知っている友人のような親しみやすさで「田久保先生、田久保先生」と声をかけて近寄ってきてくれたのだ。そのあたたかい雰囲気にも魅了され、瞬時に私は皆さんの虜になってしまった。それからは毎回、皆さんに会うのを楽しみに練習に参加させていただいている。

コロナ禍であったため、昨年は本作品を抜粋して弦楽器とピアノでの公演となったが、今年はフルオーケストラでの演奏が実現した。若竹ミュージカルの魅力はたくさんあるが、やはり一人一人が生き生きと活動していること。仲間同士の信頼が太い絆となっていること。支援者やご家族の皆さんの献身的なサポートが支えになっていること。そして何より皆が楽しく音楽活動を続けていることだ。それらが化学反応を起こしてなんともあたたかいステージを作り上げている。

卒業生たちの能力は素晴らしい。楽譜が読めない者がほとんどだが、卓越した表現力と記憶力で次々と難題をクリアしていくのだ。「音楽に音符は必要ない」。毎回の練習の成長ぶりには目を見張るものがある。彼らを見ていると無限の可能性を感じるのには私だけではないだろう。

私はまだその中の端くれの一人だが、なんとかこのミュージカルを成功させたいと強く願っている。故広井先生の大きな志には及びもつかないが、私も公演の成功に向けて、そして皆さんの楽しい表現活動のお手伝いを微力ながら今後も続けていきたい。そして「未来への愛のメッセージ」を紡いでいきたい。

再始動

若竹ミュージカルオーケストラ代表代行 谷口良二

本日は御来場いただき、誠にありがとうございます。

関係者の皆様に御支援、御協力を賜り、今年度も公演を開かせていただく運びとなりましたことを、心より感謝申し上げます。

「若竹ミュージカルオーケストラ」は、「若竹ミュージカル」と共に活動するオーケストラです。1992年の東京学芸大学附属養護学校（現、東京学芸大学附属特別支援学校）での東京学芸大学管弦楽団による音楽教室が出会いとなり、1993年の「若竹ミュージカル」誕生の後、1994年に東京学芸大学管弦楽団の有志らのオーケストラによって共演が実現しました。そのオーケストラがその後、1994年、1996年と公演を経て、1997年に「若竹ミュージカルオーケストラ（若竹オケ）」として誕生いたしました。近年は、オーケストラのメンバーが減ってしまったため、その役割を十分に果たすことができていませんでした。仕事や家庭と活動の両立は、このオーケストラの最大の課題です。是非多くの方にかかわっていただき、少しずつでも盛り上げていきたいです。

本日演奏する「口はロボットの口」（萩京子作曲）ですが、昨年度の弦楽器編成での公演に対して、今年度はフル編成で臨みます。オーケストラとしても気持ちを新たに作品に取り組んでまいりました。ただ、メンバー集めは今回も厳しく、いろいろな方から多くのサポートをいただきました。

サポートをしてくださった方々のお力があってこそその公演だとオーケストラとしては思わざるを得ません。一人一人が少しずつでも手を差し伸べてくださることで、厳しい状況をクリアすることができることを改めて認識いたしました。本当にありがとうございました。

終わりに、御指導いただいた田久保先生と優しくエールを送ってくださる観に来てくださった皆様に深く御礼申し上げます。

若竹ミュージカルオーケストラ団員募集中

～私達と一緒に活動しませんか？～

- 練習日 主に第2土曜日と第4日曜日
 - 練習場所 主に東京学芸大学附属特別支援学校（東久留米市）
 - 練習時間 13時～15時頃（公演近くは10時～15時頃）
 - ホームページ <https://wakatakemusical.wixsite.com/wakaoke>
- ※御興味がありましたら、お気軽にお声がけください。

若竹ミュージカルが目指す音楽による仲間たちとの素敵な会話

若竹ミュージカル代表 工藤 傑史

若竹ミュージカルのオペラ『口はロボットの口』の公演ようこそ！

今から遡ること30年ほど前のこと、附属特別支援学校の学芸会では「音楽劇」が盛んに行われていました。その「音楽劇」を高等部を卒業した後も続けようと始まった「若竹ミュージカル」。ちょうど同じ頃に大学のサークルオケの「音楽教室」が始まり、参加してくださった学生さんに声をかけ、若竹ミュージカルオーケストラが立ち上がりました。その翌年には、私たちの永遠のマエストロである広井隆先生を指揮者にお迎えしました。

巻頭に挨拶文を寄せてくださった指揮者の田久保裕一さん、第1回の「音楽教室」に当時は学生さんとして参加し、本日もオケピットでコントラバスを弾いてくださる菊地佐絵子さんが〈特別寄稿〉として、広井隆先生のこと、音楽教室での出来事を書いてくださいました。

その後、若竹ミュージカルと若竹ミュージカルオーケストラはお互いになくてならない存在としてレパートリーを拡げながら一緒に歩んできました。今回の演目であるオペラ『口はロボットの口』は、もともとピアノ伴奏の作品として書かれたものですが、オーケストラと一緒に演奏できないかと作曲者の萩京子さんにお願いに上がり、私たちのためにオケ版の楽譜を提供していただいたものです。

近頃、「芸術・文化による社会包摂（ソーシャル・インクルージョン）」ということばを耳にします。その真意はさておき、若竹ミュージカルは幸運にもオーケストラとのすばらしい出会いがあり、“支援者”と呼んでいる家族やスタッフも含め、そこに「音楽」と「作品」というともに語り合える共通の言語と仕掛け、共通の目的があったからこそ“ともにつくる活動”を積み上げることができたように思います。そして、それを続けることでさらに一緒につくる楽しさや発見が生まれ、一緒につくる音楽活動の意義や価値を上げてきたように感じています。

若竹ミュージカルの舞台を妙に言い当てているキャッチコピーがあります。

「歌はへた、踊りもいまいち、でもなんだか感動する」

このキャッチコピーは映画監督の金聖雄さんがドキュメンタリー映画「空想劇場 - 若竹ミュージカル物語」に付けてくださったものですが、本日も私たちらしい何かを客席にお届けできるようにがんばります。

本日のキャストですが、卒業生のメンバーは、ほぼ自分が希望した配役で出演しています。そのため、例えば主人公のテト役は5人、ココ役は3人が“たすき”をつなぐように物語をつないでいきます。衣装は同じですが、途中で演者が交代することをご了承ください。時に聴き取りにくいせりふや歌詞があるかと思いますが、その時は舞台の両サイドに字幕を用意しましたので補っていただくと幸いです。

では、ニューマエストロ田久保裕一さんの指揮で、若竹ミュージカルの音楽による仲間たちの会話をお楽しみください。

ものがたりと歌とダンス

未来のようで未来でない、昔のようで昔でない、不思議な世界の話。
(作曲者：萩京子さんのことば)

パンを作るロボット テト、テトの友達のココ、愛すべきパン職人のエド(ココの父)、パン製造ロボットを作ったドリトル博士、テトの母がわりのママ・モンロー。そこに、イースト城では、魔女ノーマ、わがままなお后様ジーンや金貸しのマニー、カエルに変えられた王様シオン、侍女たち・・・まるでおとぎ話とSFを合わせたような物語。

テトがたったひとつ得意なもの、それはパン作り・楽しいパン作り。「パンを作れなくなったら、ボクがボクでなくなっちゃう・・・」そんな思いで旅に出るテトのお話です。

プロローグ

♪ほくはロボットです ーテト・全員ー

パン製造ロボットRKJ502A001名前はテト。苦手なことは、手と足の指をたしてもたりにくい。テトの自己紹介です。

パン工場

♪パン工場 ーママ・モンロー・テト・パンロボットたち・マリリン・ヘンリーじいさんー

テトは、毎日1000個作っていたパンがだんだん作れなくなってしまいました。心配したママ・モンローは「働き過ぎだから、休んでいいよ」と歌います。「もしも、パンが作れなくなったら、ボクがボクでなくなっちゃう」と言うテトの思いに応じ、ドリトル博士の元へ行かせます。

ひとり旅

♪たったひとつ得意なこと ーテトー

テトは、ドリトル博士の住むイーストランドを目指して旅に出ました。

イーストランドの市場

♪よってらっしゃいみてらっしゃい ーどろぼう市場の人たちー

イーストランドに着いたテトを待っていたのは、市場の人たちです。この市場は、どろぼう市場。あやしげな風体で歌いながら、人をたぶらかして誘惑しています。だまされそうになったテトを助けてココは家に誘います。

ココの家

♪はああああ なにもない… ーエドー

ケチで欲ばりなお后様ジーンのおかげで、パンを作る材料がない・・・とココのお父さん・エドが歌います。

♪ごめんくださいカネ ー金貸しのマニー(もとはカエルだった)ー

借金の300イーストランド金貨を取り立てに金貸しマニーがやってきました。「この家は絶対渡してはだめ。」と言うココ。困っている様子を見てテトは「パンを作らしましょう。」と提案。

♪ほくのおなかの中で…テトのパンは あ ーテト・ココ・エド・町の人たちー

二人の目の前でテトはパンの種を取り出し、お尻から見事にホカホカのパンを生み出します。テトのパンのおいしさに感動したエドとココは、パン屋を再開。またたく間に売り切れ、300イーストランド金貨を稼ぐことができました。

イーストランド城

♪イーストランド城 ーお后ジーン・シオン(カエルに変えられている王様)・金貸しのマニー・魔女ノーマ・侍女達ハロー

テトが作ったパンに夢中になったお后ジーン。もっともっと欲しくてたまりません。ロボットが大嫌いな魔女ノーマが歌います。ノーマが出かけると、金貸しのマニーが「パンを作るロボットが欲しいか?」とジーンに持ちかけます。

休憩

イースト城

♪bバババパンパンまるで魔法 ージーン・全員ー

お城に連れてこられたテト。お城では、パンが魔法のように次々できあがり、まるでお祭りさわぎ。しかし、無理したテトはついに煙があがってしまいました。パンをもっと食べたいお后様ジーン。金貸しのマニーは、ドリトル博士を動かすため、ココの家に火をつけ、ココに罪をかぶせる悪だくみを考えます。

ココの家

♪ココのアリア ーココー

ココはお月さまに、テトが無事に帰ってくるよう祈ります。

北の塔

♪北の塔 ードリトル博士・テト・町の人たちー

ドリトル博士が幽閉されている北の塔に、壊れかけたテトが運び込まれます。ドリトル博士の処置で目を覚ましたテトは、直してくるよう懇願します。「あんなつまらない人間たちのためにパンを作ることなどない」とドリトル博士。ふと窓の外を見ると、ココの家が燃えています。「ココを助けなくちゃ」と激しく壁にぶつかっては倒れ、また起き上がるテト。自分が壊れてもココを助けたいというテトの気持ちに押されて、博士はテトに爆弾をつくり、テトを逃がしました。

ココの家

♪ココの家が燃えている ー町の人たちー

燃えさかる火の中から、ココと金貸しマニーを助け出すテト。それにもかかわらず、「火をつけたのはこのロボットだカネ」と裏切るマニー。テトは役人たちにお城に連れていかれます。今度は自分たちが助ける…と立ち上がるココとエド。

イースト城

♪イーストランド城に黒雲がたちこめる ー魔女ノーマ・シオン・ココ・テトー

魔女ノーマに内緒でロボットを運び込んだジーンたち。怒ったノーマがテトを壊そうとするころへ、ココとエドがピストルを持って登場。ジーンは誤って魔法にかかって消滅。テトが最後のパンの種をノーマの口の中に投げつけると、ノーマの身体はふくれあがり、パンと破裂してしまう。すると、魔法がとけてシオンは元の王様に、マニーは元のかえるに戻った。すっかり動かなくなってしまったテト。「不可能を可能にするのが科学者だろ」とココに迫られ、ドリトル博士はテトを直すことに・・・

エピローグ

♪エピローグ…新しい朝 ーココ・全員ー

年月がゆっくりながれながらも、テトはまだ眠り続けています。ココはテトが目覚めるのを待ち続けています。エドと一緒にパンを作りながら、待ち続けています。「また、新しい朝がきたんだよ。早く目を覚ましてよ、テト。新しい朝だよ、テト。」

注) ♪ 歌 ー歌う人ー

演出部

キャスト 紹介



テト

堀内熙
加藤彩
藤江真二郎
小島諭
茂木千沙
石黒真衣子



エド

ココ

行友宏文
藤井佑樹
川島沙弥
藤間真帆
佐藤佳代



マニー
ドトル博士
マニー
ジーン
魔女ノーマ
戸田尚幸
伊藤公一
茂木季
橋本明子
鈴樹裕一



町の人たち

戸谷好秀 (歌唱ソロ)
盛生正子 (歌唱ソロ)
佐川哲也
長田翔平 (歌唱ソロ)
佐川賢二
藤江慶一郎 (歌唱ソロ)
富山英世 (歌唱ソロ)
戸田玲子
保坂真希
小間虹音
(坪上義子)
(清野友規)
(清野三千子)



マリリン

ママモンロー

ヘンリーじいさん

小林美保
関千晶
木村智子
栗山和宏



王様

侍女達ハロー

シオン

植田久
鈴木千夏
河西美保子
戸谷さほ
谷山いづみ
小林竜一



市場の人たち

後列
前列
川島美栄子
藤間節子
堀内和子
近藤さと子
藤井弘美
清水美恵子
清水志保子
石黒芳子
近藤由紀子
加藤亜紀
河西正子
伊藤敬子
小島訓子
松矢勝宏

若竹ミュージカルオーケストラ



指揮：田久保 裕一



§ 1st ヴァイオリン §

早川 元啓
稲森 尚史
小関 哲之
川崎 伸彦
渡邊 道代

§ 2nd ヴァイオリン §

井出 美智留
厚井 知美
名取 望

§ ヴィオラ §

大山 郁子
廣井 由美子
間瀬 充

§ チェロ §

尾崎 美穂
島田 栄子
鷺頭 まり子

§ コントラバス §

青木 裕
菊地 佐絵子
富山 英世

§ フルート §

川橋 善男
北川 佳枝

§ オーボエ §

西山 智彦

§ クラリネット §

小島 規子
鳴瀬 絵理

§ ファゴット §

宮澤 新

§ ホルン §

篠原 優花
宮崎 藍

§ トランペット §

米川 智子

§ トロンボーン §

林田 敦

§ パーカッション §

時葉 由紀
矢浪 陽子

§ ピアノ §

河野 鈴子
永杉 理恵



イラスト：鷺頭まり子



田久保 裕一（たくぼゆういち）

東京学芸大学音楽科卒業。チェロ・室内楽・指揮を学ぶ。12年間小中学校の音楽教師を務めた後指揮者に転向。1994年ルーマニアで開催された第4回「ディヌ・ニコレスク」国際指揮者コンクールにてグランプリ、審査員特別賞、聴衆賞を受賞。その後世界各地で多数指揮をしている。2002年より中国内蒙古民族歌舞劇院交響楽団名誉客演指揮者を務める。これまでに国内の主要オーケストラを指揮。また全国のアマチュアオーケストラや合唱団の育成にも力を注いでいる。また全国各地で指揮法講習会を開催し高評を得ている。指揮のDVDも発売中。日本指揮者協会幹事、日本吹奏楽指導者協会会員、国立音楽大学講師、内蒙古交響楽団名誉客演指揮者。

スタッフ・公演協力者

石黒 芳子
市原 一宏
市原 弘乃
市原 望乃
伊藤 敬子☆
伊藤 正典
植田 千代子
大串 清文
大野 優子☆
風間 信治
加藤 亜紀
加藤 有紀
加藤 誠治
加藤 富美子
川島 健司

川島 美栄子
菊地 佐絵子☆
木村 卓郎
工藤 傑史☆
栗山 和枝
河野 鈴子
小島 詔
小島 訓子☆
小島 優子
小林 美沙子
小林 春江
小関 貴雄
近藤 和子
佐川 哲也
佐藤 順子

佐藤 正章
島田 栄子☆
清水 廣海
鈴木 千夏☆
関 日路美
田口 美登里
谷口 良二☆
谷山 洋子
坪上 禮子
藤間 節子
藤間 雅一
戸谷 悦子
戸田 泰幸
戸田 幸生
戸田 幸裕

戸田 玲子☆
長田 菜穂美
橋本 明子☆
藤井 保志
保坂 昌宏
保坂 裕子
堀内 和子
松坂 巧太☆
松矢 勝宏☆
茂木 正夫
盛生 桂子
盛生 裕子
矢島 郁美
行友 喜代子

☆印は演出部

音響：山北 史郎（株）山北舞台音響

照明：花家 彩子 東京学芸大学表現教育コースのみなさん

撮影：若竹ミュージカル映像部

写真撮影：官野 貴

東京学芸大学附属特別支援学校

萩京子（はぎきょうこ）：作曲

東京都出身。1978年、東京芸術大学作曲科卒業。1979年よりオペラシアターこんにゃく座の座付作曲家・ピアニストとして活動。1997年より音楽監督、2004年、代表に就任。主なオペラ作品は、宮澤賢治原作による『シグナルとシグナレス』『北守将軍と三人兄弟の医者』『注文の多い料理店』、シェイクスピア原作・『十二夜』（林光と共同作曲）、『夏の夜の夢〜嗚呼！大正浪漫編』、その他『金色夜叉』『まげもん』『にぎりえ』『好色一代男』『ネズミの涙』など。合唱曲『飛行清』（寺山修司：詩）『朝のパン』（石垣りん：詩）『ぎもちのふかみに』（谷川俊太郎：詩）『はっばとりんかく』（まど・みちお：詩）など。古今東西の詩人の詩によるソング多数。こんにゃく座以外の劇団への劇音楽も多い。

鄭義信（ちんういしん）：台本

兵庫県出身。劇作家、演出家。93年に『ザ・寺山』で岸田國士戯曲賞を受賞。『月はどっちに出ている』の脚本で、毎日映画コンクール脚本賞、キネマ旬報脚本賞などを受賞。98年には、『愛を乞うひと』でキネマ旬報脚本賞、日本アカデミー賞最優秀脚本賞ほか数々の賞を受賞。2008年の日韓合同公演『焼肉ドラゴン』（新国立劇場）では、鶴屋南北戯曲賞、読売演劇大賞、伊国屋演劇賞 個人賞など、その年の演劇賞を総なめにした。映画、演劇、テレビの分野で活躍。また、こんにゃく座の『ロはロボットの口』『まげもん』『ネズミの涙』などの作品でオペラ台本・演出を担当している。



このセリフは、どんな気持ちかな？

2023年 若竹ミュージカル 新しい「元気」

《ストーリーと登場人物を知ろう》

プロジェクターを使ってスライドを見ながら、いつ、だれが、どこで、何をしたのか、それは何故か…ストーリーと登場人物の気持ちをみんなで考える学習をしました。



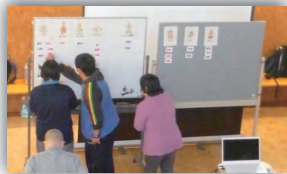
保護者と支援者のコーラスの場面も練習

気持ちをこめてセリフを言ってみよう！



《自分のやりたい役は…》

自分のやりたい役を選びました。今回はひとつの役を何人かでリレーしながら演じる「リレー方式」です。それぞれ、自分がかがやく場面を演じます。



やりたい役をすぐ決める人
いろいろやりたくて迷う人



若竹ミュージカルの広報誌「GO²プロドウェイ」より

の始まりです



ダンスの練習も楽しいね



オーケストラの音楽に合わせて練習が始まりました



《本番に向けての練習》

いよいよ、広い体育館でオーケストラと一緒に練習が始まりました。歌、セリフ、ダンス、そして自分の出る場面を覚える。本番に向けて猛練習です。



衣装を着ての練習で本番の気分が盛り上がります



オーケストラの人数も20人以上に増えて大がかりな楽器も登場！



全員のパンロボット大集合！！

Viva 若竹ミュージカル!

Part XXII

今回のテーマは

★ 私のチャレンジ!

私が幸せを感じる時は・・・

18回卒 坪上 義子

去年の「再会コンサート」でみんなと同じTシャツを着て舞台上に立てて本当に良かったです。みんなに会えると元気が出ます。今年こそ練習に行きたいと思っていましたが、猛暑で体調が悪かったです。台本を読んで練習をしていました。とても楽しみな公演です。私もがんばります。

坪上 禮子

年々、身体の衰えを感じていますが、年を重ねるとその変化の度合いが早くなり、先月より、いや、昨日よりと身体の衰えが早く感じられる様になりました。広井先生とお話し出来た折りでした「こんなに長く生きてしまっただけ・・・」と私の嘆きを口にしましたら、先生が「生かされているんだよ。自分も生かされていると思っている」とお話しされハッとしました。「生かされている今を大事にしないで」と娘と暮らすこの時間を大切に有意義に過ごしたいと、しみじみ思う只今です。

今、思っていること

21回卒 植田 久

私は、最近一番つらかったこと思い出すと、大腸ポリープの手術をした時のこと。現在ではすっかり元気になってラッキーに暮らせている。

今チャレンジしたいことは、四国の香川、高知に行きたい。そしておいしいうどんを食べたい。大きな希望としては、アメリカへ行き、僕たちのやっている『若竹ミュージカル』を見てもらいたい。ミュージカルを頑張っただけでやって来たことを、海外の皆さんにも、ぜひ!!!

チャレンジ?

植田 千代子

年令を忘れて暮らしましょう。ここ数年?いつも弱気なことばかり考え、臆病にすごして来たようで、この度、少し変心、変身してみようかとあつかましいことを思ってみることに。とは云っても身体的には伴わないこと、自他共に認められることで、人様からみれば大笑いされるのが現実ですよ。どんなに騒ぎ、頑張ってみても通用しない現実があります。が、残された人生少し羽目もはずしたり、叱ってもらったりし乍ら明るくすごしてみたい! かなわない希望かも知れませんが・・・。

僕とミュージカル

25回卒 小林 竜一



小林 美沙子

高等部卒業後すぐにサークルのミュージカルに入り、約30年(今55歳)。年齢を考えると人生の半分以上をミュージカルと共に過ごして来ました。

歌うことも、踊る事も上手ではないのに ただただ好きというだけで、仲間と共に、休むことなく、コロナ禍でも、オンラインをしたりして続けてきました。

これまで、サウンドオブミュージック、ウエストサイドストーリー、屋根の上のバイオリン弾き、ロ

はロボットの口、などを繰り返し、繰り返し(すごい)内容の、家族 戦争 恋 社会 仲間・・・など色々な問題を深く学び、練習を重ねて完成。大きなホールで公演する喜びを体験して来ました、豊かな毎日だと思います。

ママモンローと私

25回卒 木村 智子

私は昨年のオペラ「口はロボットの口」の再会コンサートでは、ママモンロー役で歌いました。今回ママモンローをやることになったのは「智子さんはママモンローに向いているよ」と応援してもらい、チャレンジしようと思いました。思い切ってオーディションを受けて、これに合格した時は嬉しくて、いっしょうけんめいに練習しようと思いました。でも、8月にコロナにかかり、おけいこも出来なくなって先生達に迷惑をかけてしまいました。若竹ミュージカルも30周年近いようですが、がんばっておけいこを続けていきたいです。

お母さんも高い空の上から見てくれていると思うがんばります。見物のお客さんにも喜んでもらいたいと思っています。

大キライだった学芸会

木村 卓朗

小学生の時の学校生活でキライなものが二つあった。一つは学芸会。もう一つは運動会。運動会は駆け足が遅かったのだが、障害物競走と騎馬戦は好きだった。私が小学生になったのは昭和13年、男女7歳にして席を同じゅうせすの真ただ中の時代だった。その1年生の時の学芸会では、こともあろうにT子ちゃん2人だけで「人形の病氣」恥ずかしがり屋で、人見知りする私は死ぬほどイヤだった。おなか痛いと休みたかったが、他にもいろいろあったのですがそれはできなかつた。父親のソフト帽子、黒い鞆、ダブダブの背広をまとって何とかお医者さんの役をやりおうせた。

それから20数年後、私はテレビの前の数万人、いや何百万人の人々にニュースのリポートをしていた。人生の転がり方はどんな方向になるのか判らないことが多すぎる。

ひとりで五日市に行くこと

25回卒 近藤 さと子

私の施設の金木星の郷は、あきる野市にあります。今は、月に一回お母さんに、五日市の駅までむかえに来てもらって、送ってもらっています。

月曜日の朝行く時は、新秋津駅から武蔵野号に乗って立川に行き、立川から五日市駅行きに乗ります。でも、五日市から帰る時は、拝島と立川と西国分寺で乗りかえます。特別快速に、まちがえて乗らないようにしなければなりません。

今は、五日市の駅から、施設まで一人で行けます。これからは、立川から一人で行けるように、練習しようかと思っています。

もし時間のゆとりが出来たら・・・

近藤 和子

現在の私は、主人の介護のこと、月一度のさと子の送迎、自分の通院などで精いっぱいです。数独は好きなので、新聞や雑誌など楽しんでいます。もし老人ホームなどに入所して、暇が出来たら、折り紙しようかな?と思って本を三冊ぐらい買ってあります。

ミュージカルの衣装の布で、パッチワークするのも思い出になるかもしれないなあ・・・と考えたりもしています。体力は全くありませんが惚けないように頑張ります。

娘がくれたチャレンジ

近藤 由紀子

ミュージカルは、来年結成30周年を迎えるという事です。

私は、その半分の十数年が、由里亡き後、1人での参加になりました。辛い時も寂しい時もありますが、これは娘がくれたチャレンジだと思い、ミュージカルから離れることは考えませんでした。「ゆりママ!」と呼んでくれるメンバー達がいて、居心地が良く、心が温かくなります。この年齢になる迄続けられるとは思っていませんでしたが、皆様を支えて頂き、今日もこうして舞台上がれるのは、とても嬉しいことです。生活にハリを!娘がくれた、これぞチャレンジ。元気をもらいに次もまたネ。

注: Viva 若竹ミュージカル Part I は 97年公演プログラムに、Part II は 2001年公演プログラム、Part III は 2005年公演プログラム、Part IV は 2006年久米久米公演プログラム、Part V は 2006年公演プログラム、Part VI は 2007年公演プログラム、Part VII は 2008年公演プログラム、Part VIII は 2009年公演プログラム、Part IX は 2010年小金井祭公演プログラム、Part X は 2010年小金井祭公演プログラム、Part XI は 2011年小金井祭公演プログラム、Part XII は 2012年小金井祭公演プログラム、Part XIII は 2013年小金井祭公演プログラム、Part XIV は 2014年小金井祭公演プログラム、Part XV は 2015年小金井祭公演プログラム、Part XVI は 2016年小金井祭公演プログラム、Part XVII は 2016年小金井祭公演プログラム、Part XVIII は 2017年若竹ミュージカル武蔵野公演プログラム、Part XIX は 2018年小金井祭公演プログラム、Part XX は 2019年若竹ミュージカル25周年記念公演プログラム、Part XXI は 2022年小金井祭公演プログラムにそれぞれ掲載

27 回卒 盛生 正子

ソロ頑張って歌います！お母さんが観に来てくれるとうれしいです。

盛生 桂子

3月から体調を崩しご無沙汰しておりますが、"正子はがんばるからお母さん応援に来てね"という言葉に奮起し、頑張って舞台を観に行きたいと思っております。本番を楽しみにしています。

チャレンジ中です

30 回卒 伊藤 公一

僕の夢がかなってドリトル博士をやれることになりました。この役は工藤先生がやって、すごかったよくて、おもしろくて、僕もやってみたかったです。

でも、長いセリフが歌です。オペラはセリフを歌でやるのだから、と教わりました。歌はむずかしいことばかりです。歌いながら、セリフの気持ちをだすなんて大変です。ドリトル博士になりたいくたあたま寮に帰ったときにも真剣に練習しました。おばあさんの白髪のかつらと妹の白衣に絵の具でシミをつくって、博士が研究したみたいになりました。不可能を可能にする、すごい博士を僕は一生懸命にやります。

年を取ってからのチャレンジは？

伊藤 敬子

「エッ、これ誰の声？」と、目覚めの最初の声の低音に驚いた日からどれ程の歳月が経つだろうか？加齢と共に低い声になる・・・と、聞いたことがあったが、あの時のショックは忘れられない。娘が小学生の時に影絵や人形劇で原爆や空襲を判りやすく伝える活動でラジカセを駆使してナレーションをいれたテープを懐かしく聞き、自分の声の変化に驚きを隠せなかった。日常の会話は低音でも良しとして、せめて歌声は訓練したら高い声も出せるのではないかと？努力の余地有り。一念発起して只今チャレンジ中。トスティの「Rosa」

「愛は逃げるもの・・・」この一節、パーンときれいに歌いたい！

歌が大好きです！

30 回卒 清野 友規

ぼくは、今年は、練習にあまり出られませんでしたが、今日、ミュージカルの友達と一緒に、沢山のお客様の前で大きな声で歌える事が出来、うれしいです。やっぱり、僕は歌が大好きです。

腰を伸ばして・・・！

清野 三千子

ここ数年、私の体調が優れず、ミュージカル活動にもあまり参加できず、継続できるかどうかと悩んでおりました。しかし、たまに参加した練習日にはメンバーの皆様へ暖かく迎えて頂き、何とか継続して、今日の公演に親子で舞台に立つ事が出来ました。オーケストラのメンバーの皆様にも感謝しつつ、楽しく歌い、演じたいと思います。

「ぼくのチャレンジ」

31 回卒 小島 諭

ぼくは、テトの役をします。「♪ぼくのお腹の中で」の歌がだいすきです。ステップのぼくの部屋で毎日練習をしました。「♪すぐにもどるよママモンロー」と「♪たった1つとくいなこと」も歌います。長いセリフも練習しました。

テトはやさしいロボットです。ぼくはやさしいロボットのおしばいや歌をチャレンジしています。

「静かに見守る」

小島 訓子

諭の自立生活では、最近夕飯を自分一人ですべて準備すると言う大きなチャレンジをしています。この先何年かかるかわかりません。不可能かも知れません。「何が食べたいか？」「何を食べようか？」と自問しながら買い物をすると言う諭のこのチャレンジを「静かに見守る」のが私のチャレンジだと思っています。手や口を出さず静かに見守るという行為は私にとって一番苦手の事ですから・・・。大昔、長男が小学生だったときの担任から「親という漢字は、木の上に立って見ると書きます」と論されました。今まで何度も挫折した「静かに見守る！」事が、

再度「私のチャレンジ」という事です。

あのパンの雲の下まであるいていこう

31 回卒 藤江 真二郎

今回のステージでは、テトの歌を歌うことになりました。

毎日練習して本番に備えています。本番もがんばります。

今回から正式に参加します

藤江 慶一郎

今回のステージから正式に参加することになりました。

ソロで歌う場面までいただいて、私も練習に励んでいます。

また、町の人の役でもたくさん歌う所があるので、がんばって歌います。

部屋を整理しました

31 回卒 小林 美保

久しぶりの公演です。私はマリリン役を二人でやります。頑張ります。

いつもは作業所で働いています。

7月にグループホームの体験をしました。新しいところでエレベーターもあって良いところです。係りの人に、お家の荷物を段々と整理しようと言われたので一杯片付けました。きれいになりました。

心身健康でないと

小林 春江

5年振りにお客さんを目の前に迎えての公演になりました。嬉しい限りです。経験したことのないコロナ禍、経験したことのないリモート練習も今までにない道を歩んで来ました。

私のチャレンジしていることは夜の1時間ウォーキングです。友達数人と決めた時間に決めたコースを都合がつく限り毎日歩くことです。しかし今年は暑さにこたえました。気分的に疲れがたまり日常生活の表面は変わりなく送っていましたが頭の中は「ボー」としていました。こんな状態ではいけない

い!! 要注意です。切り替えが出来たのがミュージカルです。公演が近付き舞台に立つ訳でもないのに気が引き締まってきます。脳も大分戻ってきました。もう大丈夫かな？まだ親子で元気に参加したいので。

「頑張りました」

31 回卒 谷山 いづみ

母が、7月に足の手術で入院したので、私は、1ヶ月間 月ちゃん家に泊まり、作業所に通いました。イライラして、友達を叩いたり、大きな声をだしたりしないように、頑張りました。

母が、元気になって 嬉しいです。

「手術にチャレンジ」

谷山 洋子

半年前から 股関節の痛みがひどくなり、痛み止めの薬が効かなくなってきたので、手術を勧められていました。

決心がついたのは、このままでは、ミュージカルの練習や、公演を楽しみにしているいづみに影響があると思ったので、手術をすることにしました。

私にとっては、手術にチャレンジする気持ちでした。

現在は、順調に回復しており、公演に間に合い良かったと思っています。

いづみも 公演に出演出来るので、楽しみにしています。

「ぼくの毎日の楽しみ」

31 回卒 栗山 和宏

ぼくは、朝おきると、仕事の前にテレビを見ます。帰って来ててもテレビを見ます。

ランニングマシンで歩きながらテレビを見ます。ニュースをいっぱい見ます。

スポーツが大好きです。大谷翔平の野球が好きです。大谷はちょうすごいです。

ホームラン 44 本すごいです。でもけがをしたので欠場になりました。がっかりです。

一番はコロナとインフルエンザ心配です。のどがいたくなったりねつが出ます。

気をつけましょう。

火事と地しんもいっぱいあります。気をつけてください。

ウクライナとロシアのせんそうが早く終わればいいなと思います。

夜は歌練習をします。公演頑張ります。

チャレンジ

32 回卒 河西 美保子

ミュージカルの歌もダンスも大好きです。でも歌が苦手です。上手にうたえるように練習します。「ロボット」の歌をぜんぶうたいたいです。

あと、料理も。休みの日はときどき昼食や夕食を作ります。カレーやマーボーナス、野菜いため、オムレツなどです。いつも作れるようにがんばります。

お弁当づくり

河西 正子

毎朝お弁当を作ります。娘が社会人になって29年半、お弁当を持って元気よく出かけています。好き嫌いがなくいつも完食。「おいしかったよ」の一言に励まされます。正直面倒臭い時もありますが、毎日ハンバーガーを食べる訳にもいきません。

週に1日職場で好きなメニューを選ぶのが楽しみです。私もほっとしています。

最近、気力や体力が衰えてきて疲れやすくなりました。いつまで働けるかわかりませんが、本人が頑張っているうちは私も作り続けようと思います。

マニーがんばります

34 回卒 鈴樹 裕一



私のチャレンジ

36 回卒 行友 宏文・喜代子

ぼくは、台詞と歌の練習を頑張りました。

オペラ『口はロボットの口』の練習が進み、エドの役をとって頂いた時、まずエーと思いました。宏文にできるのかな？人とのやり取りはどうなるのだろう？私はどう対応すればいいのだろうと、心配が先にたってしまいました。でも心を切り替え、まずやってみようと思え、宏文がグループホームから帰って家にいる2日間、宏文と私のチャレンジが始まりました。

「ミュージカルの練習する？」と聞くと、すぐ「する」と返事があり、台本を読みながらの練習から入りました。最初のことを思うと、宏文はずいぶん頑張れるようになったと思います。台詞のやり取りを台本なしでやろうとすると、私の持っている台本のぞいてきます。相手の人がこう言ったら、自分がこう言うというのをつかむのがなかなか難しいのだなと思いました。2人での練習を終え、「宏文の台詞を覚えて」と言ってその場を離れますと、台本をみながら台本の練習を一人でしている声が聞こえ、一人でも練習するなんてすごい、と成長を感じました。

本番どうなりますか。係わってくださいの方々に感謝しつつ、親子で楽しく参加できればと思っています。どうぞよろしくお願いします。

私たちのチャレンジ

38 回卒 石黒 真衣子・芳子

2020年に世の中が一変し、ミュージカルやコーラスで歌うことがいけないことと思われるようになりました。音楽に飢えてしまった真衣子の母は、声を出さなくてもできるピアノを50年ぶりに習い始めました。子供の頃に習ったハノンやソナチネを引っ張り出して、基礎からの練習ですが、3年たった今も、脳トレと思って続けています。先生にお願いして、なんとか真衣子と連弾できないかと模索中です。真衣子もピアノを弾いている母が自慢のようです。(たぶん?)

『口はロボット口』のピアノを聞いていると、あんなふうに弾けたらどんなに気持ちいいだろうとも思っています。まあ、その域に達するのは無理なので、今のところの目標は、真衣子と母の連弾と、大好きなドビュッシーの「アラバスク」を弾けるようになることです。

自分のチャレンジ

39 回卒 戸田 尚幸

僕は10年前に先輩が演じたマニーを見て自分もやってみようという思いが湧いてきました。歌はすごく難しかったけれどオーディションにチャレンジしました。今、僕が演じたいのは、いやらしい感じだけど、憎めないマニーです。自分なりの面白さが出せるように、工夫してがんばっています。まだまだうまくできないけれど、先輩に追いつけるように一生懸命背中を追いかけしています。

秋のチャレンジ 道のりは遠し

戸田 玲子

今年はいよいよお客さまの前で公演だ♪と張り切ったけれど、お腹から声を出して歌えなかった3年ほどで思った以上に声が出なくなってしまいました。『パン工場』のマリリンじゃないけれど「え～、なんでェ?!」まずはプロボヨの腹筋を何とかせねば。よし！私のチャレンジは一日一善ならぬ、一食一膳だ！…ところが、これがまた難しい～。今度はパンを作れなくなってしまったパン職人エドの気持ち「はああ～、またため息が出る」いやいやそれでもミュージカルが続けられることがし・あ・わ・せ。

私のチャレンジ

39 回卒 佐藤 佳代

前回の『口はロボットの口』の公演では水の精の役をやりました。歌を歌い終わってから、衣装の裾を踏んでしまって大転倒してしまい、大変恥ずかしい思いをしました。

今回はココの大役をやりますが転倒に気を付けて頑張ります。

ココはかわいらしく思いやりのある女の子です。ココになりきってセリフや歌を歌えるようになります。

これからのチャレンジは今まですべてを母親に頼ってきました。

グループホームの生活も11年目になり、両親に頼らずできることは自分でできるようになりたいです。

チャレンジ？ 臨むこと？ 望むこと？

39 回卒 清水 志保子・美恵子

今回のミュージカルでチャレンジすることは？まず、第1は健康を害さず、練習を重ね、元気で本番を迎えることです。今のところハラハラすることが少しありましたが、何とか、乗り越えています。第2はコーラスに少しでも声を出し、歌で参加することです。聞くことが参加だとの習慣が抜けず、家に入浴中に歌っているくらいは、さわりだけでも声を出してほしいです。第3は舞台上で、コーラス隊などの時、しっかり前を向いて立っていることです。

これはもう20年以上、志保子に望んでいることです。

そして当然のことですが、泥棒市場の台詞を大きな声でタイミングよく言うことです。

以上ですが、正確に言うこれらは親が志保子に望むチャレンジです。志保子の本心はどうか、推し量ることしかできませんが、練習の時は皆の集中している輪の中にいて一緒に体を動かし、本番の時は客席と私たちが一緒となって作っている緊張感と高揚感を皆と共に味わいたい(何せ普段から、明日本番？と言います)。

健康に気を付けて、元気よく本番を迎えたいです。

『わたしのチャレンジ！』

41 回卒 長田 翔平・葉穂美

若竹ミュージカル仲間入りがチャレンジ！

20年ほど前の本人にとっても私にとっても。

他のメンバーとは明らかに違う動き・・・とか、本番中突然居なくなる・・・(用を足しに)とか。

新型コロナウイルス感染症感染拡大により、これまであたりまえであった練習や定期公演、それに合宿を我慢することは、スケジュール変更の苦手な彼にとっちはいかに大変だっただろう。「ミュージカル練習は？合宿は？打ち上げは？」と確認することで、バランスを取ろうとしていたのかもしれない。

「口はロボットの口」再演ではソロで歌う？(これは演出部のチャレンジ?!)たしかに、メロディー・歌詞が入っていることは分かっていたけれど、インプットに必要な時間と要因は、コロナ禍も含めてか、

と勝手な推測をしてみた。

徒歩で職場に通勤

45回卒 戸谷 さほ

コロナになってすぐ、できるだけ人との接触を避けようということで、路線バスで通勤していたのを歩くことにした。職場までは2キロぐらい、はじめは30分位かかったが、少しずつ速くなり25分ぐらいまでになった。しかし、この夏は暑かった。熱中症注意報が出始めると、母が「歩くのはやめてバスにしない」と言った。いつも後ろを歩いている父も歩くのが辛そうだった。「この弱虫」と思ったが、かわいそうなので熱中症注意報が出ている日は、バスに乗ることにした。でも9月に入って少し涼しくなると、飲み水をもってまた歩き始めた。これから、私は歩き続けます。

「先生」と呼ばれたい

戸谷 好秀

昨年の夏、区報に「日本語で日本語を教えるボランティア養成講座」という記事があった。コロナのさなかで応募が少なかったのか、年寄りにも関わらず合格し、50数年ぶりに半年間毎週火曜の午後ノートを取るということとなった。

妻曰く「少年すでに老いて、学成り難し」

4月から近くの某教室に配属された。妻曰く「おじさん元気で留守がいい」

ある日、担当するX国人が、日本語で「先生、日本人の妻が強く希望しているので、帰化申請を手伝ってほしい。」

「頑張っていること」

47回卒 加藤 彩

私は、テトの役にチャレンジします。毎日アパートで練習しています。堀田先生に歌のレッスンもしていただきました。演技はとても難しいです。テトの気持ちになってやるのと、動かない演技を頑張ります。本番は楽しんでやります。

「私のチャレンジ」

加藤 亜紀

不自由な生活から解放され、今日の公演の日を迎えられたことは大きな喜びです。

その間オンライン練習、ハイブリッド練習、そして通常の練習と、常にミュージカルを意識できる環境にあったことは、本人にとって大きな支えになりました。(私にとっても)

今日は娘同様楽しんで演じたいと思います。

私事では長年働いていた会社が閉じることになり、人生の節目を迎えたような気持ちです。さてこれからどうしようかと考えているところです。しばらくのんびりしたら、何か新しいことにチャレンジしたいと思います、と意気込みだけはありますが、つい楽な方に流されてしまう性格なので、気をつけたいといけません。

とりあえずあちこちに出始めている身体の不具合を調整したら、楽しい人生が待っていると信じて前向きに進んで行きたいと思っています。先輩のお母様方の様に。

「僕のチャレンジ」

47回卒 藤井 佑樹

僕がこの「ロボットの口」でチャレンジしている事はうたとセリフです。僕の好きな歌はエピソードの歌です。とてもいい歌です。僕はエドの役をやります。エドはココのお父さんです。長いセリフが難しいですが一生懸命がんばります。エドの気持ちが伝わるように演技をしたいです。

たくさんのお客さん前で公演が出来るのが嬉しいです。オーケストラのみなさんの演奏を聞くとわくわくして嬉しいです。みんなで力あわせてがんばります。応援よろしくをお願いします

「役になりきります」

藤井 弘美

私はお母さんです。

でも、音符は読めません。

人前は苦手です。

演技は苦手です。

歌うのも苦手です。

先輩のお母様方から役をバトンして頂いたことが私のチャレンジです。

素晴らしい指揮とオーケストラの演奏に申し訳なく思いつつ、どうせ苦手でもヘタなのだから思い切り楽しみながら、仲間みんなと心と力を合わせて一生懸命にやることで良いと云うこと、謙虚さを若竹ミュージカルと卒業生達の姿に教えて頂きました。

私が得意なこと、たったひとつだけ得意なこと

それは愚直に努力することです〜♪と、言えるようになるよう頑張ります。

佑樹は出たがりですが、エドの長台詞の前の「イースト城」の出番を自ら返上し真剣に台詞の練習をする姿に舞台への責任感と緊張感が育ったことを嬉しく思いました。

親子で気づきと成長を戴いている若竹ミュージカルに感謝です。

「私のチャレンジ」

49回卒 茂木 季

わたしは、今回、ジーンの役にチャレンジします。歌が難しくしてセリフもあって、大変です。がんばって、台本もはずしてやろうと思っていますが、なかなか台本から離れられません。でも、頑張ります！！

お仕事やミュージカルのお稽古のほかには、バレエやミュージカルの舞台、演劇、映画なんかをたくさん見ることが楽しみです。そして、それは勉強にもなります。たくさんステキな舞台を観て、どんどんいろんな役にチャレンジしたいです。

「いつまでチャレンジ？」

茂木 千沙

今回は幕開けにロボットのダンスにチャレンジです。思えば、教員になって常に「チャレンジ」でした。やったことのない仕事、経験したことのない部活動の指導、取得免許以外の教科の担当・・・今の学校に赴任してからは、もはや体育の教員でもなくなりました。教員をスタートした時の「原型」すらとどめていません。

その教員生活も来年度まで！？と思っていたら、先日、校長先生から「茂木先生、埼玉県も年齢制限なくなりましたから！」とか言われて、「私の明る

い老後」は、また、遠のいた気がします・・・。

と、言うことで私のチャレンジはまだまだ続きます。

49回卒 関 千晶

マリリンで〜す、千晶で一す、みほさんで一す

みんなとロボットの口をやるのが、きんちょうしています。でも、マリリンのやくをたのしみしています。

家にも、パンのきかいがあります。いまはやってませんが、前は、ママといっしょにつくっていました。

ぶたいで、マリリンとダンスががんばります。

きれいに、DVDとれるといいな。



千晶の父、姉より

千晶は、家でマリリンの歌を毎日、何回も歌って練習しています。本番では、元気に、大きな声で、上手に歌えますように。家族みんな、応援しています。

ぼくは、テトと町の人です

50回卒 堀内 照

ぼくは、「ひとり旅」で「もしも パンが作れなくなったら」をうたいます。「それは パン作り 楽しいパン作り」のところがすきです。それから、「テトのパンは あ」で、パンをふるところがすきです。

みんなどうだって、えんぎをするのが楽しいです。本番のチャレンジ！がんばります。

私は、怪しい市場の人と普通の町の人です

堀内 和子

団員のみんなが待ち望んでいた、観客の皆様を迎えての若竹ミュージカル公演がよいよ始まりです。

コロナ禍では、Zoomによるオンライン練習、その後の対面とオンラインを組み合わせたハイブリッド練習と、大変な時期も新しいチャレンジ!でいろいろな経験ができました。

今回、熙は初めて一人で歌う場面があります。普段はほとんど筆談で声を出さない熙が、マイクを通して大きな声で歌う様子は、私には希望の歌のように感慨深い場面です。内に秘めた力を発揮できる場面を得て、熙にとって新たなチャレンジ!の場となりました。

そして私は、怪しい市場の人の役で自分の年齢や体型もお構いなしで(笑)、派手な衣装で身を包み女優?を演じる...というワクワクするチャレンジ!の場を楽しんでいます。

♪さあさあ、皆さん!よってらっしゃい!みてらっしゃい~♪

わたしのチャレンジ

50回卒 川島 沙弥

私は「口はロボットの口」の練習が始まった時からココの役が出来たら嬉しいなあと、いつも思っていたので思いが叫んだ時はとても嬉しかったです。

そこで私がチャレンジしたことは、台本を毎日読む!です。

いつもは本を読む事はあまりないのですが「ロボット」の台本読みと歌の練習は夕食後の愉しみで毎日続けました。

それと、みんなとの練習を休まないように食べすぎや寝不足にならないように健康管理にも気をつけて過ごしました。

本番では出来るだけ緊張しないで一番いいココを演じれると良いなと思っています。

非日常をチャレンジ

川島 美栄子

「口はロボットの口」の練習ではいつもなら出ないような高い声で歌ったり所作も有ります。未知の世界観で難しいのですがもっと上手に成るのはどうしたら良いの?と欲も出て練習が楽しみに成りました。

娘はもともと読書習慣は無かったのですが日常の

些細なやり取りをココの台詞や歌で遊び心をくすぐりつつ刺激していたら自ら毎日日本を読み愉しく歌うことを繰り返すようになり、健気で前向きに向き合う姿は傍にいる私たちを元気にしてくれる大切になりたい時だったと感じました。

なんとと言ってもミュージカルの舞台上上がる事は私のチャレンジです。母も負けてはいられない!と奮起するとともに、これからも非日常を楽しむ遊び心を忘れずに向き合っていきたいと思えます。

52回卒 佐川 賢二・哲也

賢二の生活の中で、若竹ミュージカルの活動が憩いの場となってきたなか、昨年10月、賢二の母親に病が見つかり、闘病が生活の中心になってしまいました。

賢二は元気で若竹ミュージカルの練習にも参加したかったのですが、同行する私に余裕がなく、ほとんど参加できませんでした。

母親が入院中、賢二も不安な中、若竹ミュージカルの方々から激励を頂きました。

お手紙に、「私達の子供には特別な神様がついています。絶対によくなられます。信じましょう」とあり勇気づけられました。

その言葉通り、名医に巡り会い、治療も順調に進んでいます。

遅ればせながら、練習に復帰して、賢二共々頑張ってますので、よろしくをお願いします。

56回卒 藤間 真帆

「ココの歌がんばります」

今年の抱負にそう書きました。

そうしたら、ホントに今回の公演でココの歌を歌わせていただく事になりました。ビックリです。

感謝の気持ちを持って歌えるように練習に励んでいます。初めての大きなチャレンジです。

応援してください。

藤間 節子

『ココのアリア』はチョコレートと言う単語に釣られて「好きー」と歌いたがり歌わせていただく事になりましたが「誰かを思う」とか「誰かのために祈る」

とか、どのくらい理解して歌っているんだろうと思う事があります。「誰かに恋する」のは人生の醍醐味なので、真帆にもそうゆう事があって欲しいと思う一方でいつまでも子どものままでいてくれる事を願う自分がいて現実はなかなかままならないのです。

せめてお芝居の中では精一杯心を込めて『恋すること』にチャレンジして欲しいと思っています。

「僕のチャレンジ」

61回卒 小間 虹音

僕はとても恥ずかしがり屋です。初めての場所、初めて会う人がいるところは気持ちがドキドキして落ち着かなくなってしまう事があります。初めての事は、ちゃんとできるかな、大丈夫かな、と不安になってしまふ事があります。でも僕は、この春から社会人になりました。パン屋さんで働いています。最初はドキドキする事ばかりだったけれど、周りの方が優しくしてくれて、今はバーガーパンを作ったり、プリンを計量をしたり、色々な事を教えてもらいながらチャレンジしています。そして最近の僕の1番のチャレンジは、若竹ミュージカルの参加を決めた事です。中学1年生の時に学芸大の文化祭の公演をみて、迫力があって、堂々としていてカッコよくて、そこにいる全員がキラキラしていて、僕もいつかあんなふうになりたいと思いました。学校を卒業して、ついに参加できる事になって、やっぱり最初は僕に出来るか不安で心配だったけれど、勇気をだして参加してみたら、発声練習や歌を歌うのが楽しくて、入ったばかりなのにプレートを上げる役割がもらえて、お揃いの衣装のTシャツが嬉しくて、皆で食べるお弁当が美味しくて、オーケストラがかっこよくて、嬉しくて楽しくてワクワクする事が沢山ありました。いつか憧れの先輩みたいになれるように、頑張って勇気を出してチャレンジを続けて、これからも、ずっとずっと若竹ミュージカルに参加したいです。

「若竹ミュージカルへのチャレンジ」

61回卒 ほさか まさき・保坂 裕子

今年度から若竹ミュージカルに参加させていたでいる保坂真希の母、裕子です。不慣れなことが多く御迷惑ばかりおかけしていますが、真希自身は舞台上上がってみんなで歌ったりセリフを言ったりすることが好きなので、これからも長く続けていければと思っています。

真希にとってのチャレンジは、なんといっても昨年まで14年間にわたる学大での生活を終え、社会人として一歩を踏み出したことです。最近初めての電車通勤や職場生活にも慣れ、毎日元気に出勤しています。

一方、社会人になると今までのようには、放課後等デイサービスを利用することもできなくなり、余暇の過ごし方も改めて考える必要がありました。真希は、以前イタリアの公立学校に通っていた時、こちらはインクルーシブ教育ということもあり、普通級の中で過ごしていたのですが、そこで年一回の演劇発表会にクラスメートとともに参加し、自分も役を得て舞台上で演じたことが非常に印象深かったようです。それからは、学大の学習発表会でも積極的に演じるようになるなど、演じるのが好きになりました。そういったこともあり、もう一つの新たな挑戦ということで、若竹ミュージカルも参加させていただきました。

今回の公演では、入ったばかりにもかかわらず舞台上に立たせていただけるとのことで、大きな声で歌を歌って、初めての公演に楽しくチャレンジしてもらいたいと思います。



若竹ミュージカルオーケストラ

「いくつになっても！」

チェロ 尾崎 美穂

練習に参加するたびに、いつも若々しく元気に活動されている若竹のお母さま方。そんな姿を見ると私もまだまだ頑張れる！とモチベーションが上がります。

今後やってみたいこと。キャニオニング、ヨーロッパで演奏会鑑賞、水族館巡り…など でもまずは健康であることと体力をつけることにチャレンジし始めなくては。この先の人生も楽しむために♪

「おいしく！なあれ！」

ヴァイオリン 小関 哲之

野菜を作っています。でも、畑ではなく小さな庭のわずかな隙間とプランターです。5月の連休は、夏野菜の準備です。今年は、ナス、キュウリ、ミニトマト、パプリカの苗を植えました。夏の収穫が待ち遠しく、採れた時の喜びはひとしおでした。そして10月。そろそろ冬に向けての準備です。今、植えてある野菜を片付けて土を耕します。ホウレンソウ、コマツナ、シュンギクの種をまきます。ほんのわずかな場所でも肥料や水やりなどの世話は結構大変で、広い畑の農家はさぞ苦労が多いのだろうと痛感します。おいしい野菜ができるように、いま畑仕事を頑張っています。おいしく！なあれ！

マラソンチャレンジ！！

フルート 川橋 善男

現在継続中のチャレンジがマラソン完走100回です。まだ若かった30歳半ばに走ることに目覚めました。10キロのマラソン大会に出場して完走。調子に乗ってハーフマラソン(21.0975キロ)大会に参加して完走。さらに調子に乗ってフルマラソン(42.195キロ)にチャレンジしたらこれも完走に成功。以来、フルマラソンとハーフマラソン合計で100回が目標となりました。コツコツ積み上げて現在半分の50回。コロナ禍もあり4年ほど中断しているので残りが大変ですが、コツコツと積み上げることが大切ですね。

日々はチャレンジ

コントラバス 菊地 佐絵子

この齢で恥ずかしながら…今チャレンジしていることは、想定外へのナイスな対処。割と予防策をあこれこれ立てるタイプですが、ここ数年何だか上手くいかない日々の連続。それも、自分の事ならいざ知らず、自分だけ頑張ったところでどうにもならない事ばかり。これが生きているってことかな、と悟りの真似事をしてみても私の心は晴れない。

そんな折、テレビである俳優が、絶対絶命に遭遇した時このままどうなっちゃうんだ？と思っているとだんだん笑えてきて…と言っているのを聞き、なぜかスッと「これだ！」と。まだまだ初心者ですが「どうしようもな〜い♪」のフレーズでニヤリと心の平穏を取り戻す人になるぞ！！

わたしのチャレンジ！！

フルート 北川 佳枝

私も挑戦したい事がたくさんあるんですが。今までのいろんな事に挑戦しては上手くできなくてスグやめちゃってばかりでした。でも！今度こそは！これは長年の夢なんですけど、若竹のみんなの中にもすでにお上手な人がいるかもしれませんが、私はルービックキューブをパパパッとできるようになりたいです。若竹のみんなの前で「こーゆーのって難しいよねー」とすごく困ったように言いながらプッププップ〜魔法のように完成させてドヤ顔になりたいです。ルービックキューブが得意なかた、ワザを伝授してくださいネ。

チャレンジしていること

クラリネット 小島 規子

私がチャレンジしていることはいくつかあります。

1つはクラリネットです。いまだに思ったような音にならず、出し方を変えたり、試行錯誤しています。YouTubeを見ると色々なプロの考え方がわかり

とても勉強になります。

2つ目は仕事です。

今までコンビニ、ケーキ屋さんなどのバイトをしてきましたが、最後の挑戦と思って数字を扱う事務の仕事に応募してみました。難しいことが多くなかなか覚えられず、わからないこともたくさんありますが日々頑張っています。

3つ目もあります。

将来(あるのか！？)リラクゼーションの仕事をしてほしいと思い、少しずつ準備を始めようと思います。

チェロ 島田 栄子

今回の公演では、初めてのソロパート等、新しい事にチャレンジしているメンバーが多くいます。果敢に取り組む姿を見て多くの刺激をもらっています。

そういう私のチャレンジはというと、今流行りの「リスキング(学びなおし)」をやりたいと思っています。高齢となってきた私の母も古典に英会話とお友達と楽しく勉強していて、年齢を理由に躊躇する事はないと体现しています。

人生100年時代、メンバーの新しい姿のように、私も負けずにまだまだこれからと頑張りたいと思っています。

だれにでも平等な、厳しさ、そして喜び
ピアノ 永杉 理恵

かねてより「若竹ミュージカル」ファンでしたが！ご縁をいただいて一緒に参加できることになり、ワクワクしています。堂々と歌い演技をする若竹の皆様表現には、無垢で素直で時には笑顔誘う親しみやすさと共に、ある種の重厚さとゆるぎなさを感じます。それはきっと、若竹の皆様が妥協せず地道に一步一步音楽に向き合い重ねてきた時間がもたらす輝き。音楽には、だれにでも平等に地道な歩みを求める厳しさがあり、同時に、だれにでも平等に喜びを与えてくれる懐の深さがあります。舞台とオケが一体となり音楽を創る喜びの瞬間を求めて、地道に！本気で！ピアノに向き合う日々です。

チャレンジ…

はしていません。たぶんチャレンジするのが苦手なので、それとわからないようにするか、あきらめます。若竹の練習は私にとってチャレンジが必要ないので楽しいです。キャストの人たちの演技や演出の方々の活躍を見て弾けるのが楽しいので、練習場所が遠くても苦になりません(今年の夏は暑すぎて、休んでしまいましたが)。今回の作品はオペラで、音は難しくないのに、演技やセリフと音楽がよく混ざりあっていて、音楽にするのが難しいです。でも、キャストの人たちが全く動じずいつも通りめいっばい演じるのを見ていると、いつの間にかこんな作品も弾けるようになってきました。

ヴァイオリン なとりのぞみ

わたしのチャレンジ

クラリネット 鳴瀬 絵理

若竹ミュージカルで参加するのは酒田公演以来4年ぶりとなります。

大人の私にとって、4年はあっという間ですが、わが子の4年の変化はとても大きく…ベビーカーに乗ってオケに参加していた長女は、ただいま大学受験を控えています。高校では、部活動でなぜかクラリネットとコントラバスの二刀流！なんだかんだで音楽を続けています。次女は、なんと来年中学生。部活動はどうしようか悩んでいる様子。吹奏楽部に入るかな？五分五分といったところ。

そんな娘たちの成長を目の当たりに、人生半世紀を迎えた私。クラリネットを吹くのに体力が必要なお年頃。でも、子どもたちに負けずにクラリネットを吹き続け、念願の四重奏をしたいなと思っています。

天に召された朋友への約束

オーボエ 西山 智彦

今年の6月、松下幸之助氏の経営哲学を共に学んでいた朋友を事故で亡くした。彼と知り合ってわずか1年で永遠の別れを迎えることになり、人生は突然終わることもある、だから一秒一秒を無駄にすることはしないと改めて痛感した。

先日、彼の遺影と友人たちの前で「貴方の遺志を継いで経営者以外の人々にも松下幸之助氏の思想を語り継ぐことを誓う」と約束した。松下幸之助氏の経営哲学を後世に語り継ぎ、失われた日本の国力を取り戻すことに挑む姿を、きっと朋友が天から見てくれているだろう。

ローマの哲学者セネカの言葉を添える。「人生は長い。しかし、真の人生は短い」

芸人？ ミュージシャン？ だけじゃない私

ヴァイオリン 早川きよーじゅ／早川 元啓

「チャレンジ」には「強い意志」が必要だ。自分のやりたいことをやりとおす。しかし、それは勝手気ままにやれるわけではない。私の「チャレンジ」は、勤めていた会社を49歳で辞めた時から始まった。「これからいったいどうする」と自問をする毎日が続いた。

これまでどおり、財布のひもが緩みっぱなしの生活がずるずると続いてしまった。このままではさすがにまずい、と選んだ道は、定職ではなく、演芸の世界だ。

大学生時代にオーケストラでヴァイオリン芸を開発した私は、その後も芸を披露し続けた。「タモリ倶楽部」などのテレビ番組にも出演。東京演芸協会のオーディションに合格し、この時、「新しい人生に『チャレンジ』すること」を決意したのだった！

その後は波乱万丈。ミュージカルのキャスト、ナレーター、大学の非常勤講師、などにも手を染め、オーケストラ・プレーヤーとしても活動を続けて若竹ミュージカルに出会った。

では、今の私の人生模様は固まった？ いやそうではない。ふらふらと、いつでも新しいことにチャレンジするつもりだ。そしてそれは、自分がこの世からいなくなる時まで続けるのだ！

おひとりさまの行方

ヴァイオリン 廣井 由美子

人生の折り返し点を過ぎたころから、理想の、とは言えなくても、その時々自分に納得できる人生を選び取ってきた結果が今の自分なのだと思う

て、のほほんと過ごしてきた私でしたが、独りになってみたら納得どころか雲の中の本の柱のてっぺんに立っている心地がしたのです。そんな時、皆様の中に入れていただいてヴァイオリンを弾くことができるようになって、有難いことに独りではないかもしれないと感じられるようになってきたこの頃です。隆は若竹が大好きでした。私も演奏会を聴く度に素晴らしくなっていく若竹ミュージカルのファンでした。今、目の前に元気で生き生きと頑張っているしゃるの人生の先輩方の姿に接することができる貴重な機会をいただけたことに感謝しています。

私のチャレンジ

ヴァイオリン 間瀬 充

演奏は常にチャレンジですが、演奏以外の話。秋から冬にかけて、庭の山茶花（さざんか）に、何輪花をつけるかが、私のチャレンジ。ネットで調べたり、見かねた人にアドバイスをいただいたり。この木との付き合いは、かれこれ30年。以前は何の苦労もなくそれなりに花をつけていたけれど、10年ほど前からつきが悪くなる。それ以来、よく花をつけたよその山茶花がやたら気になる。去年はここだけの話、い・ち・り・ん。原因はおおよそわかってる。今年最低、去年の20倍！・・・と毎年、同じようなことを言っているような気もする。

世界一のオーケストラを目指して！

ホルン 宮崎 藍

私はオーケストラの運営をしております。当初7人のアンサンブルでしたが、2年経ち、今はなんと101名。

まずはオーケストラの名前を決めました。沢山考えて、色々調べました。とっても素敵なフランス語が見つかりました。

人と人の絆を大切にしたいという思いから、魂の友という意味の言葉にしました。

次に、と書きたいところですが、文字数制限がきましたので、続きはまたの機会にさせていただきます。

世界一のオーケストラを目指して、私は仲間たちと旅を続けていきます。

『もう一回地方公演』

チェロ 鷲頭 まり子

コロナ禍、GO2に「リュック型ハードケースがほしい」と書いて、この夏とうとう思い切って買いました。

今願っているのは、60歳くらいまでに娘をグループホームに入れて、フリーになったら、サグラダファミリアを観にスペインに行きたいです。

酒田公演の時、チェロは重いしもう年だから、地方公演参加はこれが最期かな、と思っていましたが、リュック型ケースならもう一回くらいチャレンジできそうです♪

私のチャレンジ

ヴァイオリン 渡邊 道代

ヴァイオリンのパートは第1と第2に分かれています。高い音や主旋律の少ない第2ヴァイオリンをずっと弾いていました。「口はロボットの口」で、大学3年生以来の第1ヴァイオリンにチャレンジしてみました。練習では、超多忙なコンマスの代わりにソロを弾く場面もあり、お聞き苦しい点多々申し訳ありませんでしたが、お陰様で少しは度胸がつきました。本番は皆様と一緒に楽しみたいと思います。

支援者

48歳の新人

大野 優子

この4月に長く勤めた職場から転勤になりました。職場が変わっただけでなく、職種もガラッと変わり、ほぼ新人状態。最初はあまりの変化に面食らうことも多かったのですが、20代の先輩に教わりながら、なんとか周囲についていっているところです。でも、48歳になった自分が、新しいことを吸収し、先達に学ぶ、柔軟な頭と心をまだもっているんだということを感じ、少しうれしく思います。とはいえ、若竹ミュージカルの中では私はまだまだ若手。「何を言っているんだ」とお母様方に叱られそうです。いくつになっても挑戦し続ける若竹のみんなと一緒に過ごしているから、私も頑張れるのかもしれない。

ピアノ 河野 鈴子

コロナ禍で色んな事のデジタル化が進み、私もその流れで、多くの挑戦をしました。

①リモートレッスン

ーコロナ禍でのレッスンはリモートにー
現在、レッスンは対面に戻りましたが、具合悪い時や長期の帰省中は、リモートレッスンができるので、選択の幅も広がりました。

②音楽編集

若竹のzoomで使う音源を作るために、始めました。少し慣れた今は、編集に興味のある生徒さんとも円滑に話が出来るようになり、それを見据えたレッスンも出来るようになりました。

③楽譜作成・編曲

一手書きだった楽譜も電子化にー
この3つの事は全て携帯のアプリで出来る事です。コロナ禍では不便な事もありましたが、その中でも過ごしやすくしようと、色んな人々が考えて進化したことも沢山あったのだと思いました。

この頃は、歳を言い訳に諦めがちでしたが、ちょっとずつでも前に進んでいきたいと思えます。

「わたしのチャレンジ！」

鈴木 千夏

いつもでも新しいことやワクワクしそうな出来事を目の前にすると、「チャレンジしたい！」と思います。けれど、最近は、瞬発力がだいたい鈍くなってきていて、なかなかチャレンジできなかつたり時間がかかってしまったり……。なので、いつでもチャレンジできる心と身体を作ることにチャレンジしています！

今は、バク転をしてみたいなー。と思って、動画をみて、イメージトレーニング中！実際に体を動かす日は来るのかな？

チャレンジしたいこと、未満の思い

橋本 明子

若竹ミュージカル歴、祝20周年の私。20年も経つてようやく、演じるってどういうことだろう…、と思うようになったこの頃です。ちゃんと学んでみたいな、と思ったり、“ちゃんと”って何だ？と思ったり、どこでどうやって？と思ったり…。このモヤッと浮かぶ思いを実行にうつす日がいつか来るのか？自分でもまだよくわかっていません。

そんな思いを温めながら、2度目の『口はロボットの口』魔女ノーマを、楽しみながら演じられたらいいな、と思っています。

「出演者の皆さんのチャレンジ」

松坂 巧太

公演までの練習で出演者の皆さんのチャレンジをたくさん見てきました。配役を決めるときに、前回とは違う役を演じたいという意気込みをもち、役を選択した人。

休憩時間に歌やせりふの練習を熱心に取り組む人、旅行先にも台本を持って行き練習したという人、車の中で音源を流して歌の練習をしている人。

練習を積み重ねていく過程で、演技や歌など納得のいく表現ができずに悔しい思いをしている人がいましたが、次の練習では自信をもって演じる姿に感動しました。

出演者、一人一人にチャレンジしたことのエピソードがあると思います。

今回、私は舞台には出演しませんが、舞台裏で皆さんのチャレンジを微力ながらサポートします。

今回の公演と私の挑戦

若竹ミュージカル後援会長で一座員
東京学芸大学名誉教授 松矢 勝宏

私が山口薫先生から後援会長をお引き受けしてから2回目の「口はロボットの口」への挑戦になります。この9月で満83歳になりました。これからも一座員として、ずっと参加していきたい。いつも皆さんと一緒にいたい。これが私の挑戦です。なぜなら、ハツとする成長や円熟の瞬間を練習中や舞台にいるすべての卒業生に見ることができるからです。その発見が大きな喜びであるからです。若竹ミュージカル創設から30年の歴史とこれからの発展を考えながら、心から思うことです。



「今 思うこと」

コントラバス 菊地 佐絵子

私が初めて附属特別支援学校を訪れたのは、大学3年の時。学芸大のサークルオケで担当した音楽教室のためでした。当時のサークルは活動の一環で近隣の学校での小規模な音楽教室の経験はあったのですが、この附属での音教は少し規模の大きなプログラムで、常任指揮者の広井先生が指揮されることとなり、しっかり秋の合宿で仕上げました。

音楽面で常にとても厳しい広井先生でしたが、合宿中は音教のナレーターの内容まで少しの矛盾も見逃されず「もっと真剣にやれっ!」と叱咤されました。あまりの迫力に一瞬で空気がピンと張り詰める中、少しして今度は先生のゆっくりと深いお声が続きました。「たとえ相手が……。ま、それはいい。とにかくしっかりやりましょう」。そして我々は気持ちを新たに、取り組みを再開しました。

あの時、先生は言葉を飲み込まれましたが、私は、相手が耳の肥えたお客様だろうと、どんなに音楽初心者の子もたちだろうと、待っていてくれる人には、最善を尽くし心をこめて仕上げたものを届けなくてはならないことを仰りたかったのでは、と思っています。決して忘れることはありません。

そうして「オーケストラがやってきた」の立て看板の歓迎で始まった音教当日は、予想を超える展開続きでした。中でも体験指揮者のコーナーは鮮烈で、小さな小さな指揮者からユニークで力強い指揮者まで、一人ひとりが思いの丈をこめて表現。その場にいる誰もが温かな一体感の中にあり、まばたきすら惜むような気持ちで子ども指揮者を見つめて演奏したのを覚えています。ただとにかく寄り添いたい… 学生達はその一心でした。次々現れる個性豊かなカルメンに、舞台袖から覗く降り番の学生たちまで涙を拭いていましたが、私自身も想定外の涙とともに演奏していました。

その音教の最後、先生が優しく「今からみんなここに入って好きな楽器を触っていいよ～」と子供たちに呼びかけられ、ワーツと入って来た子どもたちは、小さな手でトランペットを持ってみたり、弦をはじめてみたり…。

思えばあの突然の交流が、原始若竹ミュージカルの誕生の瞬間だったように思っています(その後、若竹会の活動として正式に若竹ミュージカルが発足)。

帰り道、学生たちはただただすごいものに触れた…という充足感で、電車内でもあまり言葉を交わしませんでした(言葉にならない)。私自身、あの経験で自分の人生の方向が少しだけ変わり、現在に繋がっています。

今思うのは、コロナ禍をも乗り越えてここまで続いてきた若竹ミュージカルを、その精神を絶やさずに続けていきたいということです。本番の成功だけを目的に活動するのではなく、音楽や表現の好きな誰もが豊かな時間を過ごし、派手ではないけれど元気に生きる力になる活動として。

今回若竹オケは、その想いを同じくして集まった初参加のメンバーや、久々に再会のメンバーが一緒になり、新たなハーモニーを生み出しています。また今後、音楽教室から誕生した若竹ミュージカルを、これから社会人となる学生オケの後輩たち、とりわけ教育の世界に出る学生には是非味わって欲しいという願いもあります。

進化しながら想いを繋ぐために、自分にできることは何か。それを考えつつ、私もこの大きな相棒とともに練習に参加し、頑張っ弾き続けようと思っています。



若竹ミュージカルの沿革

1993	7	東京学芸大学教育学部附属養護学校 開校40周年記念若竹ミュージカル 発足	11.6	小金井祭 参加 『若竹ミュージカル 12年の軌跡』 コンサート
1993	8.1	第1回オリエンテーション 演目決定 『サウンド・オブ・ミュージック』	2006	5.6 若竹ミュージカルコンサート東久留米公演、『僕たちのブロードウェイ』 (於 東久留米市立中央公民館ホール)
1994	1.15	ラジオジャパンにて1月9日の練習風景放送	11.5	小金井祭 参加 『サウンド・オブ・ミュージック』 ハイライト版
	1.22	東久留米市にぎやかカーニバル出演 (於 東久留米市中央公民館)	2007	3.23 第1回附属学校の輪・カーニバルに参加 (於 東京学芸大学芸術館ホール)
1994	6.15	開校40周年記念式典行事参加 (於 東京学芸大学芸術館ホール)	7.14	若竹ミュージカル公演『サウンド・オブ・ミュージック』全幕 (於 ルネこだいら)
	10.16	若竹まつりにて『サウンド・オブ・ミュージック』上演	8.19	わくわくコンサート5周年記念公演に出演 (於 長崎ブリックホール) 『サウンド・オブ・ミュージック』全幕公演
	11.3	小金井祭*1参加 『サウンド・オブ・ミュージック』公演 東京学芸大学管弦楽団と共演	11.4	小金井祭 参加 『サウンド・オブ・ミュージック』全幕公演
	12.1	東久留米市にぎやかカーニバル出演 (於 東久留米市中央公民館)	2008	3.22 第2回附属学校の輪・カーニバルに参加 (於 東京学芸大学芸術館ホール)
1995	6	若竹ミュージカルを上演する会発足	11.2	小金井祭 参加 『屋根の上のヴァイオリン弾き』ハイライト版
	11.2	福祉文化学会主催福祉文化総大会参加 (於 横浜ラポール)	2009	3.20 第3回附属学校の輪・カーニバルに参加 (於 東京学芸大学芸術館ホール)
	12.9	東久留米市にぎやかカーニバル出演 (於 東久留米市中央公民館)	11.1	小金井祭 参加 『屋根の上のヴァイオリン弾き』全幕公演
1996	3	演目を『ウェスト・サイド・ストーリー』に決定	2010	5.2 2010若竹ミュージカル公演 (於 武蔵野市民文化会館大ホール) 『屋根の上のヴァイオリン弾き』全幕公演
	4	東京学芸大学管弦楽団OB・OG及び現役の有志により ウェストサイドストーリーオーケストラ編成 指揮者に広井隆先生を迎える	7.24	筑波大学附属久里浜特別支援学校「きらきらコンサート」に出演
	11.3	小金井祭 参加 『ウェスト・サイド・ストーリー』コンサート	11.21	小金井祭 参加 オペラ『口はロボットの口』コンサート
1997	1	広報紙GO ² ブロードウェイ創刊	2011	1.10 ドキュメンタリー映画“空想劇場〜若竹ミュージカル物語”の完成上映会 (於 成美教育文化会館)
	8	ウェストサイドストーリーオーケストラを若竹ミュージカルオーケストラと改称	8.22	星槎賞受賞 (第20回アジア知的障害会議 in 済州島)
	10.11	『ウェスト・サイド・ストーリー』公演 (於 三鷹市公会堂)	11.3	小金井祭 参加 オペラ『口はロボットの口』公演
	11.2	小金井祭 参加 『ウェスト・サイド・ストーリー』公演	11.26	南アルプス市連合PTA学習会 (於 南アルプス市櫛形生涯学習センター あやめホール) オペラ『口はロボットの口』公演
	11.23	'97山の都ふれあいコンサート参加 (於 山梨県民文化ホール) 『ウェスト・サイド・ストーリー』公演	2012	7.22 広報紙GO ² ブロードウェイ200号発刊
1998	6.14	日本発達障害学会33回研究大会特別公演 (於 東京学芸大学芸術館ホール) 『ウェスト・サイド・ストーリー』コンサート	11.23	小金井祭 参加 オペラ『口はロボットの口』公演
1999	3.7	『サウンド・オブ・ミュージック』コンサート (於 東京学芸大学芸術館ホール)	2013	11.3 小金井祭 参加 『サウンド・オブ・ミュージック』公演
2000	1.10	東京都盲・ろう・養護学校総合文化祭「舞台芸術・演劇祭」特別出演 『サウンド・オブ・ミュージック』(第1幕より)上演 (於 東京芸術劇場中ホール)	2014	11.2 小金井祭 参加 『サウンド・オブ・ミュージック』公演
	3.5	『サウンド・オブ・ミュージック』(第1幕より)公演 (於 所沢市民文化センター・ミューズ)	2014	12.21 若竹ミュージカル20周年記念公演 (於 武蔵野市民文化会館大ホール) 『サウンド・オブ・ミュージック』全幕公演
	10.9	『サウンド・オブ・ミュージック』全幕公演 (於 所沢市民文化センター・ミューズ)	2015	11.1 小金井祭 参加 『ウェスト・サイド・ストーリー』コンサート
	11.5	小金井祭 参加 『サウンド・オブ・ミュージック』全幕公演	2016	11.3 小金井祭 参加 『ウェスト・サイド・ストーリー』全幕公演
	11.12	第20回山の都ふれあいコンサートに友情出演 (於 山梨県民文化ホール)	2017	5.4 2017若竹ミュージカル武蔵野公演 (於 武蔵野市民文化会館大ホール) 『ウェスト・サイド・ストーリー』全幕公演
2001	5.4	『サウンド・オブ・ミュージック』全幕公演 (於 りゅーとびあ新潟市民芸術文化会館・劇場)	2017	11.3 小金井祭 参加 『屋根の上のヴァイオリン弾き』公演 コンサート形式
	11.3	若竹ミュージカル映像制作部による「ドキュメント新潟公演」完成	2018	11.4 小金井祭 参加 『屋根の上のヴァイオリン弾き』全幕公演
	11.4	小金井祭 参加 「ドキュメント新潟公演」上映会&出演者と語る会	2019	5.4 若竹ミュージカル25周年記念公演 (於 武蔵野市民文化会館大ホール) 『屋根の上のヴァイオリン弾き』全幕公演
2002	11.3	小金井祭 参加 『屋根の上のヴァイオリン弾き』コンサート	12.1	若竹ミュージカル酒田公演 (於 酒田市民会館「希望ホール」) 『屋根の上のヴァイオリン弾き』全幕公演
2003	11.2	小金井祭 参加 『屋根の上のヴァイオリン弾き』第一幕より	12.3	令和元年度「障害者の生涯学習支援活動」に係る文部科学大臣表彰
2004	1.10	若竹会「新年会・成人式」にて、『屋根の上のヴァイオリン弾き』から一部を披露 (於:成美教育文化会館 グリーンホール)	2020	9 オンライン練習開始 2022年4月までオンラインによる練習
	3.28	「しずおかおもちゃ図書館開館20周年記念」コンサートに出演 (於 静岡市民文化会館大ホール)『屋根の上のヴァイオリン弾き』全幕公演	10.6	広報紙GO ² ブロードウェイ300号発刊
	10.31	小金井祭 参加 『屋根の上のヴァイオリン弾き』全幕公演	2022	5 対面練習を再開
2005	1.23	広報紙GO ² ブロードウェイ100号発刊	11.6	小金井祭 参加 オペラ「口はロボットの口」再会コンサート (非公開)
	5.8	東京公演 (於 武蔵野市民文化会館大ホール)『屋根の上のヴァイオリン弾き』全幕公演 『僕たちのブロードウェイ』発行		

*1 小金井祭:東京学芸大学の学園祭で東京学芸大学芸術館・学芸の森ホールにて公演



♪ テトのパンは あ あいうえおのあ
 わずれていた あおそらの あ
 いつまでも みつめつづけていた
 あ あ あ あ

あのとおい夏なつの日の あおそらの あ



♪ テトのパンは あ あいうえおのあ
 ゆうやけのあかねぐもの あ
 どこまでも あかとんぼ おいかけていた
 あ あ あ あ

あのとおい秋あきの日の あかねぐもの あ



♪ テトのパンは あ あいうえおのあ
 あたたかい あめあがりのあ

水みずたまりにさくらははなびらが うかんでいた
 あ あ あ あ

あのとおい春はるの日の あめあがりのあ

♪ テトのパンは あ あいうえおのあ

はれた日ひも くもった日ひも あめの日ひも

かなしいときも くるしいときも さびしいときも

やってくる あさの あ

あたらしいきぼうと あたらしいよろこびと

あたらしいげんきが まどたく あさの あ

あ あ あ あ

あたらしい あさの あ

